

乳頭清拭用タオルの耐用期間

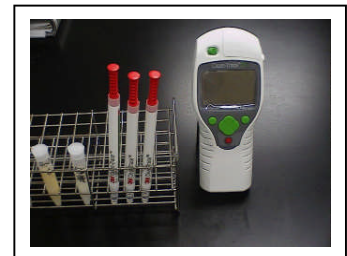
乳頭清拭タオルの細菌汚染はそのまま乳房炎の発生に関わり、特に伝染性乳房炎の発生、大腸菌性乳房炎の発生に関与する。乳頭清拭後のタオルの洗浄は如何にあるべきかを、現場での調査を踏まえて検討してみた。

乳頭清拭用タオルの耐用期間を決める要因としてタオルの細菌数(汚れ、汚染度)を指標として当初考えてみたが、それ以外にタオルの持つ物理性(汚れの取りやすさ)も重要であることが推測されたので、この2の要因に関して調査検討してみた。この結果が酪農家の参考になればと思う。

材料と方法

タオルの汚染度の判定方法：

通常は細菌検査をするのであるが、これは時間と費用がかかるので、現場ですぐに判定できるATP拭き取り検査法を実施してみた。タオルの片面を4本の線を描くようにスワブして、その後現場にて直ちに判定した。



使用器具：3M社製ルミノメーターとクリーントレース(写真)

判定基準：乳頭清拭用タオルの衛生状況を判断する基準値はない。従って現場での数値から、実現可能と思われる低い数値を基準とした。

試験1：タオルの洗濯法を全自動洗濯機使用農家(10戸)と2槽式洗濯機使用農家(10戸)、更に専用洗剤使用農家(13戸)と一般的家庭洗剤使用農家(7戸)の4群に分類して比較検討した。

試験2：2戸の酪農家で1ヶ月間の使用期間中(朝晩2回使用)、10日毎にタオルをサンプリングして凍結保存し、1ヶ月後にATP拭き取り検査を実施した。

試験3：ATP拭き取り検査を乳頭壁清拭後に実施したところ、月毎に大きな変動が生じたために、タオルの交換頻度と乳頭壁ATP拭き取り検査を比較検討した。